

くすりの豆知識

—もっと知りたい! おくすりのこと!—

No.1 薬はどのようにして効くのでしょうか

薬は、使い方によって、内服薬、外用薬、注射薬の三種類に分けられます。

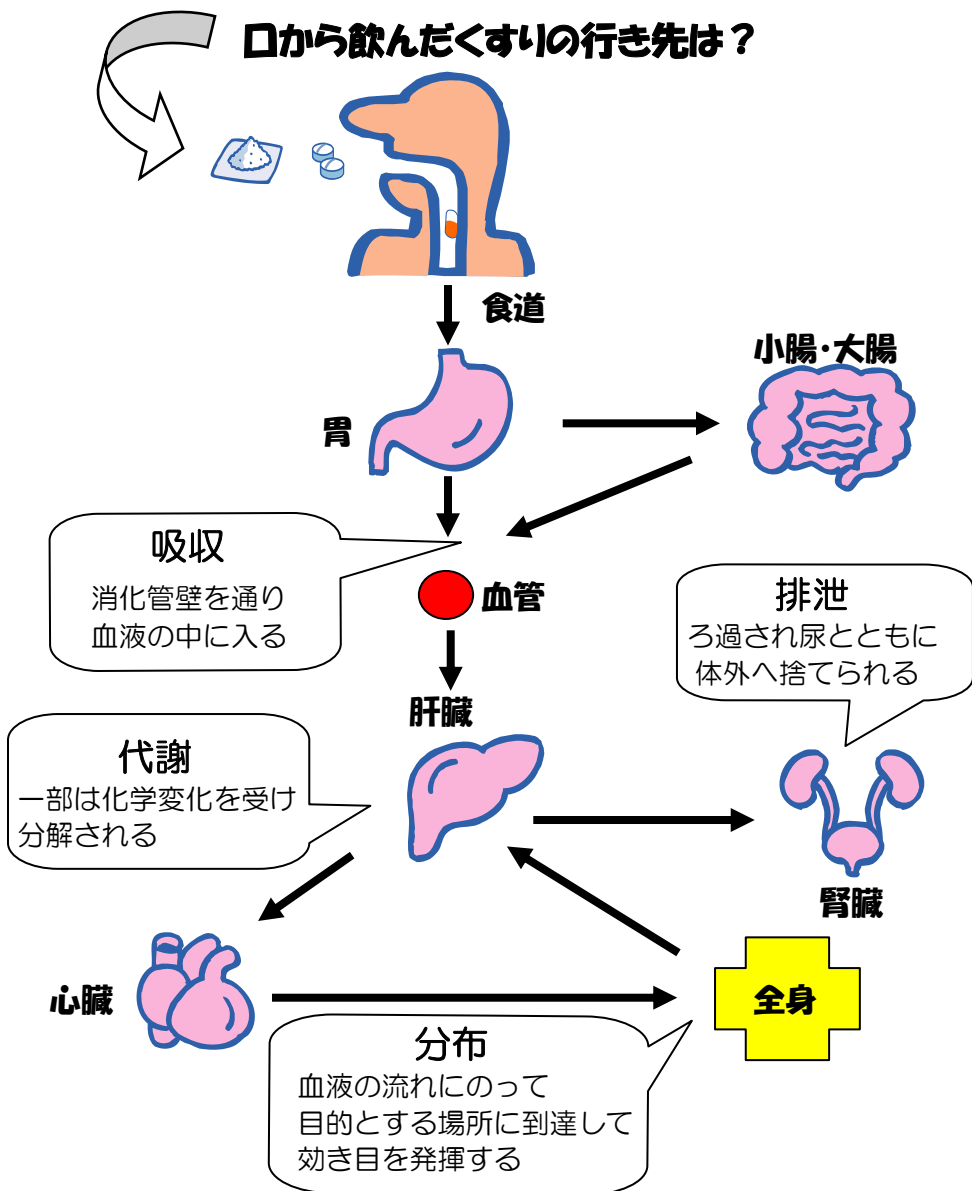
口から飲む内服薬の場合、薬は食道を通り、胃や小腸で溶けて消化管壁から血液中に入り（**吸収**）、血液の流れにのって肝臓を通り心臓を経て全身に運ばれ（**分布**）、特定の器官や組織に作用して効き目を発揮します。全身をめぐる薬は、主に肝臓で分解され無毒化されて（**代謝**）、効き目を失い、その多くは腎臓から尿とともに体の外へ捨てられます（**排泄**）。

ぬり薬や吸入剤のような外用薬では、皮膚や粘膜を通して吸収され、全身をめぐる血液の流れに入ります。また、注射薬では、直接あるいは皮膚の下の組織を通して血液の流れに入り効き目を発揮します。その後、内服薬の場合と同じように代謝の後に排泄されます。



薬の成分、剤形、使い方などによって、あるいは薬を使う個人の体質や状態によっても、**吸収・分布・代謝・排泄**の速さや強さは異なります。薬の**吸収・分布**が速ければ、効き目は早くなり、薬の**代謝・排泄**が遅ければ、効き目は長続きするようになります。このため薬が誰にでも同じように効くとは限らないのです。

口から飲んだくすりの行き先は？



2010/8/1

くすりの豆知識

—もっと知りたい! おくすりのこと!—

No.2

薬の剤形 —いろいろ—

その1

薬の成分を体の中に効率よく吸収して効き目をあらわすために、その効果や品質を保ちながら使いやすいように、いろいろな形（剤形）の薬が作られ、患者さまの年齢や状態に応じて選択されています。

【内服薬（飲み薬）の剤形】

錠剤、カプセル剤、散剤（^{こな}粉薬）、水剤などがあります。

●錠剤

- ・裸錠：薬の成分にデンプンや乳糖などの添加剤を加えてそのまま機械で圧縮し一定の形にしたもの
- ・糖衣錠：薬の苦味を隠すために、裸錠の周りを白糖の層でおおったもの
- ・フィルムコート錠：薬の味の悪さや強いにおいを隠すために、裸錠の周りを水溶性の膜でおおったもの
- ・腸溶錠：胃酸により薬の効果が落ちるのや、薬の成分が胃を荒らすのを防ぐために、胃の中（胃酸）で溶けず、小腸で溶けるように工夫したもの
- ・徐放錠：体内で薬が錠剤から徐々に溶け出てきて、効き目が長く続くようにすることで、飲む回数を少なくしたもの



※ 腸溶錠や徐放錠を服用する時は、割ったり噛みくだいたりすると、効果が落ちたり副作用が出やすくなるため注意をしましょう。

●カプセル剤

・硬カプセル剤：粉末や顆粒状の薬を、ゼラチンの筒状のカプセル（硬カプセル）に入れたもの



・軟カプセル剤：液状の薬を、ゼラチンにグリセリンなどを加えた軟らかく継ぎ目のないカプセル（軟カプセル）に入れたもの

●散剤・顆粒剤

粉末、微粒状、粒状にした薬で、錠剤やカプセル剤を飲みにくい子供や高齢者などでも飲むことができます。



●ドライシロップ

白糖などを加えて顆粒状にした薬で、水を加えると甘い味のシロップ剤になります。抗生物質に多い剤形で、子供が飲みやすいように甘味や香りがつけられています。

●水剤

液状の薬です。薬の成分が沈殿している場合もあるため、よく振ってから飲んでください。シロップ剤は主に子供用で甘味と香りがつけられています。



2010/9/1